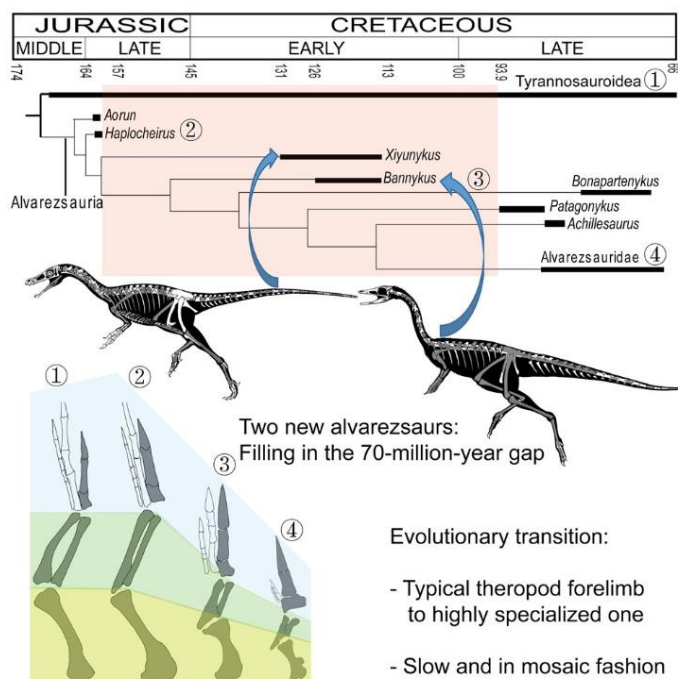


アルヴァレスサウルス科恐竜の進化を語る新たな化石発見

中国や米国などの古生物学者からなる国際研究グループは、中国で発見された 2 種類の新たな恐竜バンニクス(*Bannykus wulatensis*)と、シユニクス(*Xiyunykus pengi*)を記載した。これらの恐竜は、巨大な一本爪をもつことで特異的とされるアルヴァレスサウルス科に属するものであり、獣脚類のなかで巨大な一本爪をもつ生物出現の謎を解く鍵となった。

これらの化石の発見は、アメリカのジョージワシントン大学と中国科学アカデミーによる合同発掘調査の成果であり、2018 年 8 月に「カレント・バイオロジー」という科学雑誌上で記載された。

アルヴァレスサウルス科の恐竜は、白亜紀末期にアルゼンチンに棲息していた体長 2メートル程度の小型の恐竜である。全身は華奢で、頭部の形態は鳥類に似ており、口には小型の歯が並んでいる。後肢は長く強靱で走る能力は高かったとされる。全肢は非常に小さく、巨大な一本の爪をもっていることが特異的である。こうした爪の形態は現生のアリクイの爪と煮ており、アリやシロアリの巣を破壊するのに使われたのではないかと考えられている。この特殊な形態をもつ獣脚類恐竜の進化は謎に包まれていた。



図。アルヴァレスサウルス科の系統樹と、前肢の形態の変化。Xing Xu et al. (2018)による。

今回発見されたバンニクスとシユニクスは、中国の新疆ウイグル自治区に分布する白亜紀初期の地層から発掘されたものである。その形態は、中間的であり、比較的大きく立派な3本の爪や大きな歯をもつアルヴァレスサウルス科の祖先とされる恐竜と、アrikuiのような一本の爪をもつアルヴァレスサウルス科の獣脚類であるモノニクスの中間的な形質を備えていた。

研究者たちは、新たに発見された化石の記載に基づいて、獣脚類がもつ3本の指のうち、第2指と第3指が徐々に矮小化していったことで、アルヴァレスサウルス科の獣脚類が進化したと論じている。

[1] Xing Xu et al. (2018) Two early Cretaceous fossils document transitional stages in Alvarezsaurian dinosaur evolution. *Current Biology*, 2018; DOI:10.1016/j.cub.2018.07.057,